

地震防災マップとは

大きな地震が発生すると、建物の倒壊や家具の下敷きになるなどの被害が生じます。また、道路や電気、水道などのライフラインの寸断や火災が発生します。特に冬季には積雪や寒さで、より大きな被害が出る恐れがあります。

地震防災マップは、第3次地震被害想定で想定された揺れの強さや液状化の危険性などを図示し、あわせて地震災害に対する日頃の備えや災害時の行動などの情報をのせております。災害時はもとより、日頃の防災対策にご活用ください。

〈第3次地震被害想定とは〉

災害対策にあたっては、想定される最悪の事態に備えておく必要があります。第3次地震被害想定（平成20年9月）は、最新の知見等を基に札幌で発生する可能性があり最大級の被害をもたらす地震を想定して被害を予測したものです。なお、このような地震がいつ起きるかという予知は現在の科学では難しいとされております。

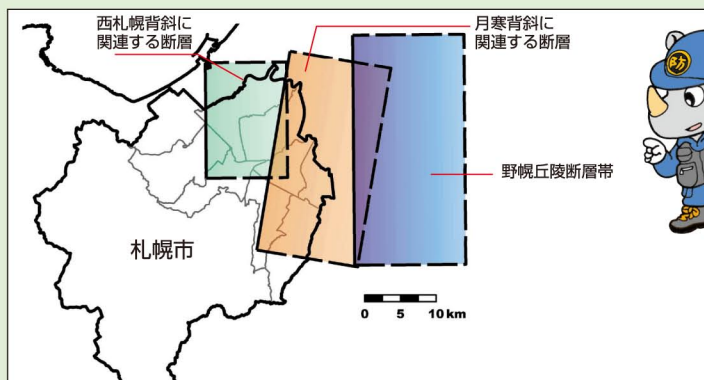


忘れた頃にやってくる地震。ボクもしっかり備えます！

防災アドバイザー
防サイくん

利用にあたって

地震マップは、札幌市に大きな影響が想定される3つの地震（野幌丘陵断層帯、月寒背斜に関連する断層、西札幌背斜に関連する断層）の震度を重ね合わせ、それぞれの地域において最大の震度を表しました。予測される揺れの強さや避難場所などを確認しましょう。



液状化危険度図は、液状化の起こりやすさを4段階で表しています。液状化とは、地震で地中の砂粒の間を満たしている水の圧力が高まり、地盤が一時的に液体のような状態になることで、建物が傾いたり、マンホールがとびだしたりします。



2003年十勝沖地震 写真提供:土木研究所 寒地土木研究所

建物全壊率図は、地域ごとに地震により建物がどの程度倒壊するのかを率で想定し、その程度に応じてランク分けして表したものです。



2007年新潟県中越沖地震 写真提供:首都大学東京 都市環境学部

注) 全壊とは、住家の損壊、焼失した部分の床面積がその住家の延べ床面積の70%以上、または、主要構造部の被害額が住家の時価50%以上に達した程度としています。